

令和6年度 国語科研究部 第2回研修会 3ブロック報告 (5、8部会)

1 「児童生徒の『学びの調整力』を単元の中で、どのように育成していくのか」

第1回市教研での話し合いをもとに「学びの調整」に関わる実践報告を行った。1学期にそれぞれが実践した内容から、どうすれば主体的な取り組みになるのか協議することができた。また、午前中の中村教授からいただいた講話をもとに、今後の実践や課題について確認できた。

2 グループ別研修「第3回市教研 授業研究について」

亀玉小学校 前原侑希 教諭

単元構想をもとに、本年度の研究テーマや重点事項について触れながら話し合いが行われた。「学びの調整」が行えるのは単元計画のどの時間か、「学びの調整」を行うためにどのような手立てが考えられるか、など明確な検討事項が挙がっていたため、話し合いは円滑かつ活発に行われた。本日の検討内容を参考に、第3回研修会では、授業参観を行い、グループ協議を行う予定である。



令和6年度 国語科研究部 第2回研修会 4ブロック報告 (6、7部会)

1 グループ別研修「1学期の実践交流」

第1回で分かれた学年別グループで、1学期の実践について話し合い、本年度の研究テーマ及び重点について得られた成果や課題をまとめた。

2 グループ別研修「第3回市教研 授業研究について」

雄踏小 太田征宏先生(小6)

授業案をもとに、本年度の研究テーマ及び重点を視点とし、単元目標を達成するために有効と考えられる手立てや、留意点、本単元実施までにつけておきたい力や実践等について、グループに分かれて検討した。本日の検討内容を参考に、第3回研修会では授業を参観または視聴し、グループ協議を行う予定である。

～グループ協議での意見の一部～

- ・ 目標と指導と評価の一体化が必要である。
- ・ 相手や目的を明確にすることが必要。
- ・ 教師モデルの内容と見せるタイミングや見せ方を、さらに検討する必要がある。
- ・ 具体的な評価のポイントを提示することが必要。

3 指導講評 三ヶ日中学校長 江間 昌史先生

自分の思いを生き生きと語る子供たちをイメージして、単元を作成できるとよい。その際、相手や目的を明確にして子供たちに提示することに加え、その内容に必然性があり、学習意欲を高められるものであることが必要である。また、自分の思いの強さの根拠となることをはっきり表現できるような内容にしたり、仕掛けを行ったりしていくとよい。

